



# 子育て情報 5月号

平成 28 年 5 月  
栢山女学園大学附属幼稚園

## 家族を想う 5 月

園長 横尾 尚子

桜の木々も青々と茂り、薫風さわやかな 5 月が始まりました。幼稚園生活も早 1 ヶ月が過ぎましたが、栢山幼稚園はいかがですか？ お子さんは楽しんで登園されていますか？

5 月は、5 日の「こどもの日」から「母の日(今年は 8 日)」へと、家族を想う日々が続きますね。

5 月 5 日は古来より、男の子の健やかな成長を祈願する行事である「端午の節句」の日でした。「端午」とは月の始めの午(うま)の日のことで、後に「午」は「五」に通じることから毎月 5 日となり、その中でも数字が重なる 5 月 5 日を「端午の節句」と呼ぶようになったそうです。強い香気で厄を払う菖蒲や蓬を軒の下につらし、菖蒲湯に入ること無病息災を願いました。また、「菖蒲」を「尚武」という言葉にかけて勇ましい「鎧」や「兜」を飾り、登竜門の中国伝説を受けて「鯉のぼり」を立てて、男の子の成長と出世を祝ってきました。そして昭和 23 年、「端午の節句」は「こどもの日」と呼ばれる祝日となりました。

この「こどもの日」についてさらに調べてみたところ、(すでにご存知の方が多いと思いますが)私の中で驚きの発見がありました。「国民の祝日に関する法律(通称祝日法)」の第 2 条で、「こどもの日」は「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日」とされていました。子どもの健やかな成長を願う日であることはもちろん、産み育ててくれている母親に感謝する日でもあったのです。こどもを慈しむ祝日は、母を想う祝日でもありました。母親の一人として何だか嬉しくなりました。

さらに 8 日の「母の日」が続きます。「母の日」はどうして 5 月の第 2 日曜日なのでしょう？

1908 年の 5 月 10 日(第 2 日曜日)、アメリカのアンナという女性が教会で亡き母のための追悼式を行い、母親の思い出の品として白いカーネーションを出席者一人ひとりに配ったそうです。アンナの想いはアメリカ中の人々の心を動かし、1915 年世界で初めての「母の日：母に愛をささげる祝日」が、5 月の第 2 日曜日に定められました。日本には 1947 年に導入され、同じく 5 月の第 2 日曜日が「母の日」となり、アンナの白いカーネーションは赤いカーネーションとして受け継がれました。カーネーション全般の花言葉は「無垢で深い愛」。白いカーネーションは「純粋な愛」。そして赤いカーネーションは「母への愛」。「母の日」に贈られるカーネーションは、いずれも母への「愛」を清らかに届けてくれるようです。

我が家の「母の日」。幼い頃の娘たちは、毎年似顔絵と「お手伝い券」や「肩たたき券」をプレゼントしてくれました。似顔絵は今も大切にファイリングしていますが、「お手伝い券」や「肩たたき券」は、もったいなくて使わずにいるといつもすぐに期限が切れてしまい(?)、一度もその恩恵に浴することなく途絶えてしまいました。今年は二人とも名古屋を離れて学生生活を送っていますが、メールぐらいは届くでしょうか。まあ、元気でいてくれることが、一番のプレゼントではありますが……。

娘としての私は、独居の母を案じています。「要介護 1」の認定を受けている母は、腰が悪くて歩行に困難を抱えていて、一人では買い物に行けません。一人暮らしの寂しさと記憶の曖昧さから、詐欺的行為にも巻き込まれやすく、火の不始末からの火事が心配で調理を止められています。何でもできる・何でも頼れる母だったはずが、少しずつ壊れていくようで心が痛みます。そのくせ、「帰宅が遅い」「早く寝なさい」と、いつまでも私を子ども扱いしてくることにカチンとしてしまいます。子育てもたいへんですが、介護もたいへんです。ですが、子どもの笑顔に一瞬にして疲れが消えてしまうように、老いた母の笑顔に励まされるのも事実です。家族に育ち、家族を育て、家族とある幸せを大切にしたいと思っています。